筆山

第63号／2017年12月

土佐中・高等学校同窓会
関東支部会報

編集人/ 中平 公美子（59回）
発行人/ 関東支部幹事長　市川 直介（53回）
関東支部ホームページ：
http://www.tosako-kanto.org/

ふるさとへの手紙
新たな「自分」を発見

死に物狂いで勉強していた浪人生活から６年が経ち、とうとう大学を卒業しようとしています。

私が通っていた大学は、比較的厳しくない教育方針でした。授業はほとんど出席を取らず、出席している学生はだいたい20人くらいでした（一学年は百人強です）。私も不真面目な学生のうちの一人で、授業をさぼっては気の向くままに、東京の美味しいラーメン屋を自転車で巡ったり、旅行したり、バイトしたり、時には恋愛に没頭したりしていました。しかしそのおかげで、今まで気づいていなかった「自分」を発見することができました。例えば、「案外自分はドライブが好きだ」とか「自分にはこういう仕事はあまり向いてないかも」だとか、「いつもこういう女の子に騙される！」といった具合です。

中でも大きな発見は、４年生の時にありました。４年生の初めに、大学内の研究室に割り当てられ、そこから最低半年間実験・研究をします。大腸菌を用いて、自分のデザインしたＤＮＡを作って、動物の細胞に組み込むという実験を延々とやっていたのですが、それが面白くて面白くてたまりませんでした。私たちが肉眼では見えないミクロな世界で、細胞内外のさまざまなたんぱく質がダイナミックに動いた結果、例えばマウスの脳が緑色に光ったり、癌化したりするのを目の当たりにして、興奮を覚えました。ここで私は、「ミクロな（遺伝子や蛋白質）変化が、マクロな（細胞が緑色に光ったり、癌化したりする）変化を引き起こす過程がとても好きだ！」という、「自分」を発見しました。

来年からは高知県の病院で臨床研修を行う予定です。患者さんが訴える症状や所見は、おそらくミクロな世界で遺伝子やたんぱく質がダイナミックに動いた結果起きています。しかし、現在の医学では未だちゃんと判明していないものが数多くあります。目の前の患者さんから常に勉強させていただいているという意識をもって、来年から働いていきたいと思います。

慶応義塾大学　医学部６年　中山雄二　86回

現役大学生と行く
社長インタビュー
つながる

第一回目の訪問に片岡先輩を訪問インタビューに選ばせて頂きました。七十歳を過ぎてなお元気でパワフルな片岡先輩の経緯や今後に興味を持ったからなんです。

土佐高校をご卒業後は京都大学で物理を専攻されていたんですよね。

はい。大学では湯川秀樹教授の授業も受けました。卒業後は、実力主義と四二歳定年制という千代田化工建設（株）に興味があり技師として入社、エンジニアとして最新式の機械での研究は魅力がありました。

理系男子が経理のお仕事に就かれた経緯を教えてください。

二七歳を前にして結婚しましたが、その頃には経理の方に興味を持ち、公認会計士の資格を手に入れました。当時は制御システムの仕事から移してもらえず、三三歳になってやっと海外税務を担当することになりました。一人で中東地域へ出張し海外での経理全般を交渉しました。三十代は激務でしたが、やりがいのある仕事を任せてもらい、精神的にも強くなりました。社会人としての成長期であったと思います。

お若い時から経理会社の社長業に就かれてますね。

二五年になります。四二歳から子会社となるＡＢＣ（アロービジネスコンサルティング）で千代田系の経理を任され、社長業を行ってきました。ちふれとの関わりは四六歳ごろ非常勤取締役となってからです。経理から学んだ会社法と決算の知識は株主総会の時などの今の仕事にすごく活かされています。

今年は御社にとって節目の年だとお聞きしました

はい。今年七十周年を迎え、また来年は『ちふれ』ブランド五十周年を迎えます。十月十七日の記念式典では、坂東眞理子さんや向井千秋さんにご講演をいただき、女性のための企業としての理念を再確認したところです。

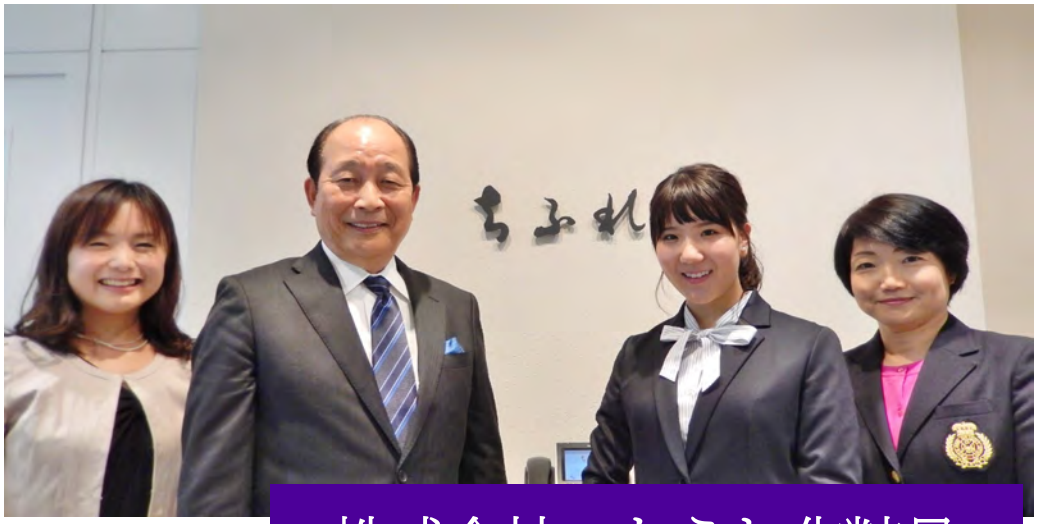
記念式典用に制作された映像を見せていただき、「ちふれ」の今後の展開が楽しみに感じました。化粧品を扱う会社として、難しいなとお考えのことがありますか。

はい。まず一つ目は医療品など薬には副作用がありますが、化粧品は副作用が起きてはいけないということです。最低限の原料と容器で作り、余分なものは入れないこと。目指す肌は、紫外線カットや美白成分で白さを留め、潤いを保ち艶のあるしわのない肌です。二つ目は、いいものを作れば必ず売れる訳ではないことです。女性は理性とともに感性で買い求めるので、香りの他に、デザインやパッケージを重視したり、高額品を買いたがる人は多いのです。そこが難しいですね。

（次ページへ）

第１回　　片岡方和　かたおかまさかず　４０回生

ちふれ
CHIFURE



株式会社　ちふれ化粧品

片岡方和　プロフィール

昭和４０年３月土佐高卒業
昭和４４年３月京都大学理学部物理学科卒業
同年　千代田化工建設（株）入社
平成元年４月アロー・ビジネス・コンサルティング（株）代表取締役就任
平成１７年７月港トラスト税理士法人代表社員就任
平成２２年（株）ちふれ　六代目社長に就任　　税理士・公認会計士

今号から始まった社長インタビュー企画。次号以降、訪問させていただける社長様と訪問インタビューをしてみたいという大学生を募集しています。企画へのご協力よろしくお願いいたします。

高価な化粧品では躊躇してしまうでしょうが、ちふれ化粧水をたっぷり使ってお肌の潤いを保っていただきたいですね。

海外での販売も増えていますね

はい。現在は、中国やタイ、台湾にも販売しています。中国では代理店料、関税、運賃等で二倍くらいの値段になってしまいますが、海外で売っているちふれ商品も全てmade in Japanです。made in Japanは日本人のみならず海外の人も安心だと思われていますから現地工場は考えていません。

化粧品会社は女性社員の比率が多いのでしょうか

渋谷オフィスは男性が半数ほどいますが、川越本社は研究職や製造では七割ほどが女性です。

最近は、女性の考え方が変わってきて、子供が出来ても仕事を続けられる方が多いです。積極的な人は伸ばしてあげたいですし、子供の教育のためや、十分な退職金を得るためにも働き続けて欲しいと思います。

また、管理職の半分が女性です。時短勤務など、特別な雇用形態を用意するなど環境を整えてあげることが大事です。

なでしこリーグで奮戦中のサッカーチームもお持ちですよね

はい。スポーツや文化活動をする女性も企業として応援しています。

「ちふれらしさ」とはどこにあるとお考えですか。

一言では言えませんが、まずは「安全、安心、高品質の化粧品」を目指しています。その証左として成分とその分量の表示や配合目的の公開を他社に先駆けて行ってきました。

また、「正義感と誇りをもって、うそのない事業活動を行う」ということです。お客様のご要望に応えるため、良心の塊であるちふれブランドの他、百貨店ブランド「綾花」やオーガニック・コスメ「ＤｏＯｒｇａｎｉｃ」の品質を常に高め、これからも新商品を提供し続けるつもりです。

ちふれの今後の姿は

ずっと同じまま変わらないのではなく、失敗を恐れず時代とともに変化を取り入れて、時には思い切った変革をして行くことです。そのためにも多様性を重んじることが大切だと感じます。

中途採用で、新しい発想を取り入れ、高齢者や、外国人、障害のある方など外部の人が入ることによって面白くなる。新しいものを生み出すには別の文化を入れることが必要なのです。

お忙しい中ありがとうございました。新商品にも期待しています。

記事　中平公美子

渋谷駅から４分のオフィスは清潔感いっぱい。

安全・安心・高品質

品質向上に正義感と誇り

インタビューを終えて

片岡先輩は百二十歳まで何をしようか考えている、とまだまだ好奇心旺盛でした。自らが健康や美に気を遣われていて、商品の品質面や社内環境面においてより良い「ちふれ化粧品」という会社を作り出していると感じました。失敗や、後悔を含めこれまでの全ての経験と、将来への不安や厳しい道など、全部無駄ではなく後の経験になる、とポジティヴに考えることが楽しむコツとか。私ももっと積極的に色々なことにチャレンジして、新しく出会う様々な年齢の方や違う文化を持つ方との関わりを大切にし、多様性を豊かにしていきたいです。学びと出会いを価値ある経験に変えていこうという勇気をもらいました。

早稲田大学1年　廣瀬　心（92回）

期待は良い意味で裏切られました。大企業の社長である片岡さんは、きっと強烈な個性の持ち主だろうと想像していたのですが、いざ取材が始まると、あまりに気さくに低姿勢でいらっしゃるので、もっと社長らしく偉そうにしてもよさそうなものだと、無用の心配をしたほどです。こちらの緊張をとくかのように終始笑顔をうかべ、すべての質問に真摯に対応してくださいました。印象的だったのは、人生の転換期において過去に後ろ髪をひかれなかったのかという質問に「私は、未来に興味があります。」と答えてくださったことです。顔をあげ、今向き合っている課題に取り組めと、背中を押してもらったように思います。

編集員　佐藤彩記子（81回）

海外からの報告

国際色豊かな生活
成長と努力した事実を自信に

新田陽介　81回

留学のきっかけ

２０１６年８月からスペインのバルセロナに留学しています。ここでは、MBA（経営学修士）を取得するため、IESEビジネススクールという非常に国際色豊かな学校に通っています。留学前は日本郵政株式会社（日本郵便、ゆうちょ銀行、かんぽ生命の持株会社）で約６年間働いていました。日本郵政では米国郵政との共同プロジェクトや海外投資家に経営戦略や財務状況を説明する業務に携わりました。これらの経験の中で、英語力や外国人を動かすコミュニケーション能力の未熟さとこれまで自分がものすごく狭い世界の中にいたことを痛感しました。そこで、世界中の優秀な人たちが集まるビジネススクールに行って、自分自身を成長させようと決めました。留学することを決めてからは、１年間、仕事以外の時間全てを勉強に費やし、なんとか合格にたどり着くことができました。

授業の様子

ビジネススクールでは、１年目は共通科目のストラテジー（経営戦略）、ファイナンス（財務）、マーケティング、オペレーション等を満遍なく勉強しました。２年目の現在は、自分の好きな科目を選択し、自分に足りない分野である統計やマーケティングについて重点的に勉強しています。授業はスペイン語ではなく全て英語で行われます。授業がある日のスケジュールは、以下のイメージです。

IESEは、ビジネススクールの中でも特にきついプログラムということで有名で、正直ものすごく忙しいです。授業は、ケースメソッドといって、実際に過去のビジネスで起きた問題を扱いながら学んでいきます。ケースメソッドで一番大事なのは、事前に自分でしっかりその問題について分析して自分自身の考えを持つことです。１つの授業で１５ページほどのビジネスの問題が描写されているものを読まなければならず、それが１日３授業あるので、英語ネイティブの生徒でもかなりきつい中、非ネイティブの僕たちにとっては地獄の毎日です。また、授業の忙しさに加えてディナーやパーティーなどのソーシャルイベントも多く、これもないがしろにはできないので、睡眠時間が短い日が続きます。

クラスメイトは７０人いて、授業では教授の仕切りのもと、みんなでディスカッションをしながら学んでいきます。その中で重要なのは、全員の前で自ら手を挙げ、自分の考えを述べることや誰かの意見に対し賛否を示しその根拠を述べていくことです。完全なる日本人であるぼくにとって、これは非常に困難でした。欧米人は子供のころからディスカッションをしてきているのでそれに慣れている一方で、あまりそのようなディスカッションをしてきた経験が少ないこと、またそれに加えて、周囲の英語のスピードやそれぞれの国の人たち独特の英語アクセントで聞きとりにくかったりして、議論についていくことができないことも大きな壁でした。ただそれよりも何よりも最も自分の発言を妨げているのは、自分自身でした。自分の英語が下手だとか（死ぬほど勉強したにも関わらずクラスでは一番英語下手くそです）、こんなことを言っても意味がないとか、勝手に思い込んでできない理由を自分で作ってました。実際クラスメイトは、内容がしっかりあれば、下手くそな英語でも聞いてくれるし、英語の上手下手で人を評価したりしません。自分がアホな意見だと思ってることが、他の人にとって有益な情報だったりすることもあると今では気づくことができました。

授業のある日のスケジュール

7:00	起床
8:30	１時間目の授業
10:00	チームミーティング
11:15	２時間目の授業
12:30	ランチ
14:00	３時間目の授業
15:30	ビジネスに関するクラブ活動 （著名人の講話） （テーマディスカッション）等
17:00	帰宅後、翌日の授業の予習
21:00	夕食、風呂、リラックス
23:00	また予習
1:00	就寝

Barcelona

街と学校の魅力

スペインのビジネススクールを選んだ理由は３つあります。１つめは、多様性の高い環境に身において視野を広げたいという目的があったことです。ビジネススクールというと、米国が有名ですが、米国のスクールは米国人の割合が高く、国籍という意味での多様性があまりないんです。それに比べてスペインのビジネススクールは、マジョリティの国籍がないほど多様な国から魅力的な人が集まっています。２つめは、すでに説明したケースメソッドで進められるプログラムが外国人とのコミュニケーション能力を向上させるのに一番良いと思ったことです。３つめは、バルセロナという立地の魅力です。せっかくの海外生活なので、学校生活だけでなくプライベートも楽しく過ごしたいという思いがありました。これについては想像以上に良かったです。食べ物も美味しいし天気も最高。雨はあまり降りません。日差しは強いですが、乾燥しているので、夏は涼しく、冬は暖かいです。海まで電車で１５分で行くことができます。スペイン人は人柄も陽気で、本当に最高の街だと思います。

日常生活

普段の生活は、同じ学校の生徒とシェアハウスをしています。ヨーロッパではシェアハウスはかなりメジャーで学校のほとんどの生徒が数人でシェアしています。１年目は、アメリカ人、イタリア人、メキシコ人と合計４人でシェアしていました。ただ、残念ながら習慣や考え方の違いでうまくいかず、２年目になる時に解散しました。２年目はクラスのチームメイトのドイツ人、インド人、スペイン人の４人でシェアをはじめ、今回は非常に楽しく生活を送れています。このなかのドイツ人は王族の子孫なのですが、本当に気さくで面白く、思いやりのある最高の友達です。クラスメイトを家に呼んで、それぞれが自分の国の料理を持ち寄ってパーティーをしたり、深夜までお互いの考え方について話しあったり、非常に楽しく貴重な経験ができていると感じています。

週末の過ごし方は、プロジェクトや試験前で課題がある時は、週末でも勉強したりミーティングをしています。余裕のある時は、海に行ってビーチバレーをしたり、旅行に行っています。ヨーロッパにいると日本からは行きにくい場所に簡単に行けるので最高です。これまでに、ポルトガル、モロッコ、フランス、イギリス、カナリア諸島に旅行に行きました。

結び

最後に留学して今思うことについて、少しだけ書きたいと思います。自分のComfort Zone（居心地の良い領域）を飛び出していろんなことに挑戦していくことは、本当に大変だし、辛いですけど、それだけやりがいもあるし、新しい発見もあるし、魅力的な人たちにも会えるし、自分の成長を感じることもできるので最高です。ぼくは留学して考えが変わったことがあります。今までは何かをする時に結果がうまくいきそうかどうかで、するかどうかを判断してましたが、今は結果よりも何かチャレンジングなことに対して努力することそのものに意義を感じるようになりました。結果がどうであれ、その努力した事実とそれによって成長した自分は確実に残るなと思います。何かの折にバルセロナに立ち寄ることがあれば、ぜひご連絡いただければと思います。

王族出身のドイツ人チームメイトの実家に旅行

都会で子育て

佐藤彩記子（８１回）

都会に来て２年がたつ。電車の乗り換えや人混みにはまだ慣れないものの、生活も落ち着いてきた。引越と同時期にはじまった育児もようやく楽しめるようになってきた。ただ自分の幼いころの環境とはいろいろな点で異なる子育ては、今なお手探り状態である。

「イクメン」「ワンオペ育児」「産後うつ」これらの言葉を耳にしたことがあるだろうか。どれも現代の育児現場でよく使われるものであるが、どうしてこのような言葉が注目されるのだろうか。育児は現代特有の問題ではなく、いつの時代も楽ではない仕事であったはずである。

私自身は、子どもとの生活が始まった１年目、家で二人きりになることに苦痛を感じることも、誰かと一緒にいたいという欲求も、なかなか認められずにいた。わが子と一緒にいるにもかかわらず孤独と不安をおぼえるのは、精神的に自立していない証と恥じ、子どもといる時間がつらいと思うことには、自らの母性の欠如だと落胆していたからだ。引越をしたばかりということもあり、「ママ友」をつくることに対しても抵抗があった。行きすがりの人と、ありふれたことを表面的に話し、なんとなく過ごすという行為は、夫や兄弟、友人が働く中で、遊んでいる行為ではないかと気が引けていたのである。

そのような不安感を払拭してくれたのが、育児を特集したNHKの番組である。（参照番組を書籍化した『ママたちが非常事態？』（NHKスペシャル取材班著・ポプラ社））人間とDNAが最も近い生物であるチンパンジーを比較することで、人間らしさとは何かを研究したものである。人間らしい子育てのカギは「共同養育」にあった。

チンパンジーが５年周期に妊娠するのに対し、人間は毎年でも可能性がある。これは人間が、肉体的に他の動物より弱いため、多産の必要があったためである。多産であれば、自ずと複数人の子どもを同時に育てる必要があるが、その過程で、すでに生まれた幼い子どもは母親以外の人でも育てられるようになった。子孫繁栄の本能をもつ生物は、本来わが子の育児を他者に任せない。子どもを他人に預けられるのは、高度な信頼関係を構築する人間のみができるのである。

ほかの相違点として、チンパンジーは不安や孤独によるストレスに悩まされない。驚くべきことは、５０年の生涯のうち、約６人の子どもを出産するが、父親や仲間は面倒をみず、母親ひとりで子どもを育てるそうだ。いわばスーパーシングルマザーである。

たいして人間の母親が孤独を感じるのは、本能的に誰かと一緒にいることを求めるようになっているためである。人は不安を感じるときに、誰かと一緒にいたいと感じるだろう。

子育て支援NPO法人を利用

土佐高の友人たちと。
今後は同窓会でも子連れOKなイベントを催していきたい

子どもを群れで育てるという「共同養育」は、人間の進化の賜物であり、７００万年前からひきついできた育児方法である。ところが近年１００年のうちに核家族化が進み、かつての共同体は喪失した。人類史の０．００１％の期間に生じた変化に、私たちの体はまだ適応しないのである。

また番組によると「母性」についても、女性だからといって脳に生まれつき備わっているものではなく、育児を経験するなかで育まれていくものということだ。私自身は出産前に赤ちゃんに触れる機会もほとんどなかったため、不慣れも仕方がないことなのであろう。

知識を得たところで、実際にはマンションのひと部屋で育児する状況が依然として続いているのだが、問題の持ち方が変わった。閉鎖的な心境から、そもそも子育ては周囲の協力が必要なものであり、いかに社会の一員として受け入れてもらえるようにするかと、外に目をむけることができたように思う。

そのようなことを思っていたときに、関東支部の同窓会で中平さんと出会った。２人のお子さんを都会で育て上げられた先輩の姿はまぶしい。成人の子をもつ親は世にあふれているが、土佐高の先輩となると、より一層親近感を感じられる。先輩・後輩に出来たなら自分にもできるかもしれない、というおこがましい希望は、土佐高時代に、名門大に合格される先輩の背に憧れた受験のときと同じものである。土佐高校の先輩、同輩、後輩の皆さん、これからも様々な経験を教えて下さい。

今号より編集に加わりました
佐藤（旧姓：中井）彩記子81回生です。
相続のプロをめざして目下勉強中です。
筆山では様々な方のことを記事にしたいので、
皆さまご指導のほどよろしくお願いいたします。

一般社団法人
土佐婚倶楽部®
TOSAKON CLUB
婚活のお悩みを心を込めてサポート致します
年に数回、合コン等やってます！詳細はＨＰで
代表理事・東京相談室長　織田祐輔（45回生）
顧問弁護士　浦田理有（76回生）
URL http://tosakonclub.com/
東京相談室　042-521-2020
〒190-0012 東京都立川市曙町1-12-19 吉田ビル402

ハイクの会
尾瀬ハイクと燧ケ岳（ひうちがたけ）登山

１日目　総勢　３６名
いよいよ２１回目のハイクの会はハイカーの憧れ、尾瀬です。台風の余波で朝の新宿ではかなりの雨模様、先行きが心配される出発でしたが、お昼すぎに前沢曲屋集落に着く頃には気持ちの良い青空が広がって沿道のコスモスや蕎麦の花が満開でした。車内では蕎麦の花は見るもので嗅ぐものではないという話でひと盛り上がりあり、おなじみバスガイドの中沢さんの名司会ありで和やかに宿泊先の御池ロッジに到着しました。

散策組　尾瀬沼へ

２日目　散策組　21名
時に「徘徊組」と揶揄されることもある散策組ですが、今回の尾瀬沼一周は案内のちらしに「整備された木道・アップダウンも少ない」とあったにもかかわらず、群馬県側に入ると悪路あり、段差あり、う回路ありでかなり足にきました。帰りの沼山峠に向かう時には平らな木道でも「ヨロメキ歩く」〈井上さん（三八回）の川柳より〉始末。しかし夏と秋とが混在している草原の花々や尾瀬沼越しに見える美しい燧ケ岳の山容に尾瀬の魅力を再認識しました。

登山組　燧ケ岳へ

２日目、登山組　15名
池田さんを隊長に御池から燧ケ岳を目指す。天候が回復する気配はない。オオシラビソの森を抜け木道に入った所で朝食。とうとう降り始めた。飯が先か雨具が先か、あわてた私は、宿でもらった二つの弁当包みを昼食から食べ始めてしまった。私だけでないことは後で知った。広沢田代を抜け、熊沢田代を過ぎた辺りから視界が良くなり、一瞬燧ケ岳山頂手前までの展望が開けた。ガレキの登りが始まる。隊列が乱れ始めた所で池田さんが全軍を止めた。帰りのバス出発時刻から逆算をしている。そして、ここから引き返す組6名と山頂を目指す組9名とに隊を割った。山頂へはほぼ直登。1時間強で俎グラに着く。雲は流れているが展望はない。相談し、長英新道を下ることにした。　少し下った展望台で雲が切れ、尾瀬沼全貌が姿を現した。すぐに次の雲が展望を隠す。　気がついたら我が隊は６人になっていた。

３人は先行したに違いないと、６人で下りを急ぐ。追いつかない。休憩できそうな場所にも姿が見えない。長蔵小屋売店にも、沼山峠でも見つからない。皆、不安な気持ちのまま御池ロッジに戻った。
久万さんの表情が暗い。登りで奥様と別れ、山頂から息子さんを見失い、一本の下り道なのに消息不明だからもっともな話だ。
後刻、繋がらなかった連絡が何とか繋がって、散策組と合流している情報が入る。久万さんのビールをことさら美味くしたに違いない。
体力、脚力差のある多人数登山の難しさ、撤退と進行の時間判断、そして隊が分断した後の合流計画など、教えられ、考えさせられた山行でした。

西本憲良　（44回）

俳句・川柳の会

帰りのバスの車中ではお待ちかねの俳句・川柳の時間となりました。体力は限界でも頭は働く？「文武両道ここにあり」です。今回はいつも選句をして下さる中山さんがお休みのため全員の投票で入選作が決まりました。中島さん（三八回）が俳句と川柳両方で「天」を射止めました。感性も知性も優れているということでしょうね。いつもながらすばらしい！岡野家の子供たちも大活躍でした。

《俳句》

天　曲り屋に馬の影なし秋日和　　中島　宏

地　赤とんぼ草の水面を飛びまわる　　岡野　啓

人　秋の旅晴れ間くもり間燧岳　　西本　憲良

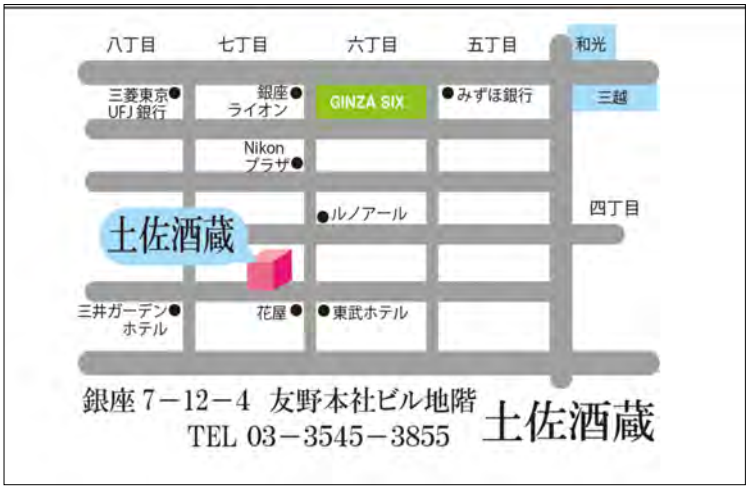
《川柳》

天　見栄もあり面子もあって登山組　　中島　宏

地　木道をヨロメキ歩く土佐ハイク　　井上　健郎

人　五合目だそれはいいのかわるいのか　　岡野　英智

いつも三七、三八回生の方々には幹事として準備段階から当日帰りつくまで多大なご面倒をおかけしているので感謝・感謝ですが、それ以上にご本人方が楽しんでいることが伝わってきてとても嬉しく感じます。来年からは若い幹事さんが活躍されるようですが、今まで積み上げてきた経験をぜひ次の世代に伝えていっていただきたいと思います。とはいえ、肩の荷が少し軽くなったからと言って、これ以上「酔うたんぼ」が増えんように頼むぞね！　　神宮美恵子（44回）



第２０回　はちきん会

今年、２０回という節目を迎えた「はちきん会」。記念すべき日の会場は、東京湾クルーズ船「ヴァンテアン号」のトワイライトクルーズ。窓の外には、まばゆい東京の夜景が広がり、フレンチのお食事に、ビールもワインも飲み放題、これでたったの５０００円！という驚きの価格に、総勢６０名のはちきんたちが集まりました。

夕刻、雨がぱらつく中、船に乗り込み、いざ出港です。
さて、クルーズ船上で酔っ払う前に、講演を拝聴いたしました。講師は、５１回生の小竹由紀さん。小柄でキュートな笑顔からは想像できないキャリアの持ち主です。

　土佐高を卒業後、京都大学・薬学部へ進み、ライオン株式会社に入社、研究開発に取り組んできたという小竹さん。今でこそ“女性が働きやすい会社“として知られる「ライオン」ですが、小竹さんの入社時は、女性の総合職は珍しい存在だったそうです。当時の意外なエピソードに、一同大きな衝撃を受けつつも、未だ存在する「ガラスの天井」に立ち向かうべく、はちきん魂を奮い立たせる機会となりました。

コース料理に大満足

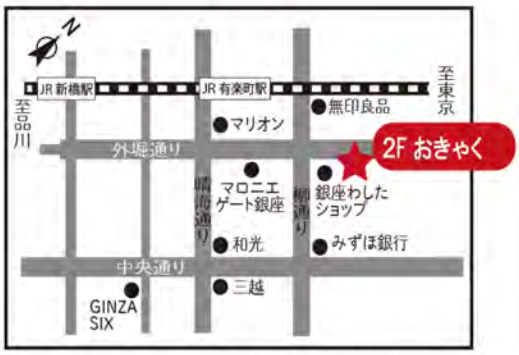
真剣に講演拝聴中

フレンチのコースが、デザートに差し掛かる頃、雨はすっかりやんで、デッキには、心地よい風が吹いていました。ほろ酔い気分で下船し、浜松町駅近くの居酒屋へ。二次会も30人を超える参加者で大盛況。先輩後輩が、肩を寄せ合い酒を酌み交わし、新たな交流が生まれた1日となりました。

鍋を囲んでの一言スピーチ

今回の開催にあたっては、ナイトを38回生・池田勲夫さんが引き受けてくださいました。本当にありがとうございました。

おきゃく
TOSA DINING
一般財団法人
高知県地産外商公社
アドバイザー 濱田知佐 56
渡辺 真子 88　高田 裕斗 89
立本 侑理 89　横田　剛 90
大原 海里 90　今橋 香乃 90
田内 薫子 90　竹内　駿 90
今井 虹歩 91　久万 武朗 91
西本 七海 91　筒井 千夏 91
広瀬　心 92　山村 倖加 92
中澤 綾香 92



www.marugotokochi.com/
TEL 03-3538-4351（サンゴ・皿鉢・ヨサコイ）
〒104-0061　東京都中央区銀座 1-3-13

また来年、さらにパワーアップしたはちきんの皆様に　お会いできることを楽しみにしています。

はちきん会 幹事　宮崎晶子（67回）

江戸百景（十二）深川八幡　界隈

深川八幡（正式名称は富ケ岡八幡宮）の創建時期は諸説あり判然しないが、長盛上人という人により寛永期に実質的に創建されたと言うのが一番確からしい。当時深川洲崎は沒人地でしょっちゅう風浪に脅かされていたが、上人は土地の開拓と埋め立てに尽力して、ついに六万坪の新地を得た。そこで幕府の許可を得て、寛永四年（一六二七）新地の中央に八幡神社を建築し、近くに別当寺たる永代寺を建て、長盛自身、初代の住職となった。八幡神社の祭神（主神）は応神天皇とした。明治以前は神仏混淆であり、永代寺住職が神職を兼ねていた。広大な敷地を寄進しての創建以来、幕府の信任篤く、以後ずっと幕府から篤く保護された。

〈八幡宮繁盛の方策〉

しかしあまりに江戸から遠いので（開帳時以外の）平生は参詣人が少なく寂しかった。別当永代寺はこれを憂い、延宝年間（一六八〇年頃）、神社から二、三町の間に、腰掛茶屋と小料理屋を設け、みめよろしき女を雇い入れ参詣人の袖を引かせた。当時の八幡宮境内は現代よりずっと広大であったが、一の鳥居の外ばかりでなく、鳥居から内もその仕組みにした。たちまち満都の評判になり、参詣人が流れ寄った。酒の酌の間に、小唄を歌い、三味線を弾き、鼓を打った。それ以来富ケ岡八幡宮はめきめきと繁盛した。神仏も女の力を待って栄えるようであった。

〈都の辰巳〉

こうしてできた深川洲崎の色町は、八幡宮とともに、ますます栄え、深川七場所と呼ばれる江戸を代表する岡場所となり、文化文政期（一八〇四～一八三〇）に最盛期を迎えた。七場所とは、土橋、櫓下、裾継、門前仲町、アヒル、石場、新地と呼ばれた。特に門前仲町は全部が色町で最も賑やかなところだった。深川の地は江戸城から東南（辰巳）の方角にあり、新吉原を北里・北郭と呼ぶのに対し深川の色町は辰巳と呼ばれ、洲崎の芸妓は辰巳芸妓と呼ばれた。

〈辰巳気質〉

茶汲み女から出発した辰巳女の気質は、初めの頃は東北・松前から江戸湾に入って来る船頭衆を相手にしていたので、船乗り特有のざっくばらんな気質が辰巳衆に感染した。意地と張りと押しが強く、イナセでキャンであったが、単純と見る裏に都会人らしいデリカシーもあり、情にはもろく涙ッぽやく「よし分かった」と言えば本当によく分かったのであり「妾（わらわ）が引き受けた」と言えばどこまでも引き受けたのであり、借金して人を助け、一言の然諾に命を懸けるようなところがあった。

文化文政頃になると回漕業とともに発達した米商、材木商、魚商などの豪奢な生活に守られて、辰巳女の気質は、これら深川独特の寛闊大腹な商人気質から、船頭以外の都会的・俳諧的感化をこうむって、異常の洗練を遂げた。イナセとキャンの上に、都会的な粋が加わり、辰巳風という一種侠艶な風俗が、浮世絵に描き残され、戯作本（人情本）に書き残された。

辰巳芸妓は何故か羽織を着た。一説に、羽織を着た子供役者に似せて自分を若く見せるためという。当時、女の羽織は非常に突飛で、それで客の前に出るのはおとなしくない好みで、崩れた風俗であった。それが珍しさに、ハオリ芸妓という名称がおこり、後には略して、ハオリ、ハオリと呼ばれた。

〈辰巳色町の消滅〉

岡場所の繁盛は吉原の営業を脅かすこと少なくないので、吉原からは、たびたび当局者へ岡場所の取締りを請願した。それで辰巳もたびたび当局の手入れを受けたが、とうとう天保十三年（一八四二）三月、水野忠邦の天保の改革の一環として岡場所禁止令が出て、江戸の岡場所は雲散霧消し、その時を限りとして辰巳の色町も再び見られなくなった。しかし、辰巳を追われた女たちは、大川（隅田川）を渡り柳橋に紅い灯をともした。よってその後幕末明治を通じて、辰巳風は柳橋芸妓により正統的に受け継がれていったのである。

〈深川八幡の祭り〉

深川八幡の祭りは、山王祭、神田明神祭と並んで江戸の三大祭の一つであった。それぞれ特徴があり、「仇は深川いなせは神田人の悪いが麹町」と言われ、また「神輿深川山車神田だだっ広いが山王様」とも言われた。この三大祭は現代でも盛んで、特に深川八幡祭と神田明神祭は百丁以上の町神輿が繰り出す盛大な祭りになっている。深川八幡の二年に一度の本祭りは八月十五日を中心におこなわれる（神田明神祭は五月十五日）。深川八幡祭の歴史は古く、江戸初期から断続的に行われており、文化四年（一八〇七）八月十九日の祭礼では、やって来る山車を見物しようと永代橋上に大群衆が押しかけ、その重みで橋が落下して千人近い水死人がでるという大惨事が起こっている。

（四一回　西岡恒憲）

（上）江戸切絵図＜尾張屋清七版（嘉永頃-1850頃）。深川八幡前の広い通りが現代の永代通りとなる所。一の鳥居は現代の清澄通りと永代通りが交差する辺りにあった。二の鳥居は八幡の前にある。江戸時代の永代橋は今の永代橋より一町ほど上流にかかっていた。

（上）歌川廣重「江都名所」より「深川富岡八幡」（天保年間-1840頃）。鳥居をくぐって行くのは左褄取った辰巳芸者衆であろう。左に見える石垣の奥に本殿がある。

（上）現代の富岡八幡宮。奥に本殿が見える。（筆者撮影）

「不確実な時代」だからこそ
ガーナよさこい交流のご報告
公文敏雄（三五回）

今年もガーナ高校生男女二一名（セント・ピーターズ高校、セント・ローズ高校など）が八月十八日に来日、東京、猪苗代での研修・交流を終え、九月五日全員無事帰国いたしました。この間、皆様から温かいお励ましとご協力を頂きましたことに、厚く御礼申し上げます。

前半は東京飯田橋のユースホステルに滞在、受け入れ校麻布学園の施設をお借りしてよさこい踊りの練習に励む傍ら、両国生徒が相共にガーナ大使館、東京大学、鎌倉・江の島、皇居、江戸東京博物館、ロッテ浦和工場、明治神宮など各方面を訪問いたしました。

歴史を眼で見る江戸東京博物館も人気

八月二七日（日）には、二三日上京の土佐中・高校生十四名も加わり、「ロッテ・ガーナよさこい連」の名で原宿スーパーよさこいに十三回連続で出場、表参道行進の先頭を切って、猛練習の成果を観衆の皆様に披露しました。

十日間の東京合宿の後、一行は群馬県太田市を訪ねてSUBARU自動車の矢島工場を見学（森郁夫氏＝四一回、小松健造氏＝五六回のご紹介）、その興奮が醒めやらぬまま野口英世ゆかりの福島県猪苗代に移動、磐梯山と猪苗代湖に囲まれた静謐な町で疲れを癒しました。ここでは猪苗代高校挙げての歓迎に感激し、また、野口英世記念館で不屈の精神と生涯の記録を目の当たりにして心を揺さぶられ、強く生きる力を呼び覚まされました。

○東京大学での熱血授業

今年のノーベル文学賞に日系英国人カズオ・イシグロが選ばれたというニュースが世界を驚かせました。

東京大学での班別学習風景

「我々が持つ、世界と繋がっているという幻想的感覚の下に隠れた底知れぬ淵を明らかにした」という授賞理由でした。直後の記者会見で彼は「私たちは恐ろしく不確実な時代を生きているのです」と語っています。

時代に敏感な若者たちが、交流行事の中でも（よさこいと並び）こぞって感想を熱く語ったのは、麻布学園の先生のご提案による、東京大学駒場キャンパスでのワークショップ「若者の精神保健と幸せ」でした。米国・国連での研究実績を持ち帰った気鋭の井筒節準教授らの熱血指導のもと、丸一日、自殺の問題をはじめ、学業、家庭、友人関係、将来への不安など、国籍を問わず誰しもにとって身近な悩みを出し合い、数人ずつの小グループに分かれて解決策を議論しました。発展途上国ガーナの生徒にとっては、卒業後の就職と、教育（貧困による機会喪失、授業品質、インフラなど）が特に深刻な問題のようでした。日本人生徒に関しては、自分たちが住む国や社会の将来に対する不安と、自信の持て無さが浮き彫りになりました。確かな答えを探しあぐねる生徒たちに対し指導教官からは、政治に期待するだけでなく、色々なところから刺激を受けることを含め、自分たちに何が出来るかを考え話し合うことで視界が開けて来るでしょうとの助言がありました。

○いのち（生命）が喜んでいる

「原宿・表参道元氣祭スーパーよさこい」出場と本祭に向けての練習、そしてユースホステルでの共同生活を、土佐校生も本当に楽しんでくれたようです。たとえ「幻想」と言われようとも、人との「つながり」を求めてけなげに挑戦し、悲喜こもごもの感情を顕わにする生徒たちの姿は、「ああ、いのちが喜んでいる」とすら思わせてくれました。

彼らの感想文の一部をご紹介します。

「交流の目玉であるよさこいは、本当に楽しく、ワクワクし、盛り上がりました。正直、暑そうだし、めんどくさいな～と思う気持ちが無くはなかったのですが、本番、大勢の方々が応援してくださっている中で踊り始めた瞬間に、そんな思いは吹き飛んでいました。皆で作り上げていく楽しさ、嬉しさを実感できるイベントでした。これこそ、国を超えてのつながりだと思います。最後まで応援してくださった方々、本当にありがとうございました。

今回の出来事を通じて、私は相手を思いやることの大切さを再認識しました。言葉が通じにくい相手とどう向き合っていくのか・・・。まずは相手を思いやって、どうやったらお互いの気持ちが伝わっていくのかを考えて行動できるようになりたいと思います。とてもいい思い出となりました。」（中三Kさん）

・・・・・・・・・・・・・・

若者たちの世話焼きを始めて十四年。私ども「ガーナよさこい支援会」は、皆様をはじめ近頃増えてきた交流参加OB・OG大学生・若手社会人の助けを借りながら、活動を絶やすことなく続けて参りたいと思います。

「ロッテ・ガーナよさこい連」の演舞（原宿）

関東支部だより

皆様には日頃より同窓会関東支部の活動にご協力いただきありがとうございます。今年度後半の活動報告と、来年度の日程をお知らせいたします。一層のご支援とご協力をお願いいたします。

●はちきん会

10月14日（土）竹芝桟橋から出航するトワイライトクルーズで行われました。ライオン株式会社 CSR推進部長の小竹由紀さん（51回）をゲストスピーカーにお迎えし、池田勲夫さん（38回）にナイトをお引き受けいただきました。二次会への参加も多く、大変な盛り上がりとなりました。

詳細は本誌10～11ページをご覧ください

●学生・若手社会人交流会

11月25日（土）東京大学駒場キャンパス内にて行われました。

今年のメインテーマは

「MY COMPASS ～ 社会人人生の中で指針としてきたもの」。

パネリストは、現キリン株式会社取締役副社長の小川洋さん（49回）、本会発起人である森・濱田松本法律事務所弁護士の小松岳志さん（70回）。モデレーターを幹事の一人の藤本將孝さん（86回・SMBC日興証券）がつとめパネルディスカッションが行われました。

会報誌『筆山』では次号にてく詳しくご報告いたします

●学年幹事会および支部総会について

学年幹事会は2月10日（土）

総会・懇親会は6月2日（土）

総会開会15時から 懇親会開会5時半から

開催場所：霞が関ビル35F　東海大学校友会館

2018年度は、回生末尾8の会の方々が中心となって企画されます。企画からの参加をよろしくお願いいたします。

土佐中・高等学校同窓会関東支部ＨＰ　http://www.tosako-kanto.org/

「筆山会」新年会開催のお知らせ

日時: 2018年 1月 13日(土)

12:00～14:00 (11:30 受付開始)

場所: 新日鐵 代々木倶楽部

(03-3370-3141)

参加費:男性　7,000円

女性　5,000円

(60回以降の方は1,000円割引します)

同窓生と新しい年の幕開けを
お祝いしましょう。みなさまお誘い
合わせの上、奮ってご参加下さい。
お待ちしております。
参加される方は、下記事務局まで
電話又はメールでご連絡下さい。

前田憲一 (37回)
080-3364-8885
kmaeda@s4.dion.ne.jp

会場から徒歩数分の
明治神宮への初詣を
兼ねて参加される方も
いらっしゃいます。

母校だより

校長　小村　彰（49回）

四月の関西支部に始まり、東海、関東、香川、新規発足の徳島、北海道、そして一二月の広島と全国七支部の同窓会に出席させていただきました。どの支部会でも、皆さまの母校に寄せる熱い思いを感じ、校長の担う重責を改めて感じたことでした。あっという間に時は過ぎ、遠い先のように思っていた創立百周年も現実味を帯びて近づいてきています。土佐にふさわしい百周年を迎えるべく、準備も具体化しつつあります。関東支部の皆さまにも、いろいろな面でご支援ご協力をお願いすることになろうかと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。学校の近況を二つお知らせします。

【夏休み、全国区で大活躍】

この夏最大のニュースは、全国中学生大会陸上競技の男子四〇〇ｍで、本校三年生の大野心碧（こなー）君が見事に二位に入賞したことです。自らの県中学記録を更新する記録での二位という快挙に大きな拍手を送りたいと思います。この陸上競技部は中学四国大会の学校対抗で優勝するなど、全体の力が高まっている中での成果でした。中学の運動部はこの他にも、県体で男女そろって優勝したハンドボール部、女子団体で優勝したテニス部、さらに県体では女子、四国大会では男子が優勝した弓道部、などたくさんのクラブが大きな成果を残しました。中学野球部も県選手権準優勝で高知新聞に大きく取り上げられました。高校生も男女テニス部、登山部、さらに陸上競技部が七月末から八月にかけて東北各県で開催されたインターハイに出場しました。上位進出はなりませんでしたが、それぞれに健闘し、体感した全国レベルを今後に活かしていってくれることを期待しています。

高知新聞の記事より

一方、文化部もたくさんのクラブが全国大会に出場、ふだんは触れることのできない高いレベルを実体験することができました。中でも、八月初めに宮城県で開かれた全国総文祭には、美術部・吹奏楽部・音楽部（弦楽）・放送部・書道部・棋道部・かるた同好会から計四六名が出場。県内参加数の約四分の一を本校が占めました。

そして、その高知県参加生徒を代表して本校二年生の山本凪沙さんが総合開会式に参加し、各県代表が発表する「ひとことメッセージ」の中で、本人の考えた土佐弁メッセージを披露しました。

「カツオがつなぐ土佐の人情はあついがやき！　宮城もあつくするきね」

全国で、そして世界で活躍する生徒がこれからも次々に出てくることを期待しています

【第七〇回運動会　開催】

予定の九月二三日の前日が朝から雨。やぐらの準備ができず、結局一日順延して、二四日の日曜日に開催しました。朝六時の開門時には、すでに百人近くが列を作るという恒例の光景が今年も見られました。近年になくゆとりを持って、かつ立派に創られたやぐらが建ち並ぶ中、薄曇りの絶好のコンディションの下で、七〇回の節目の運動会が始まりました。高二の鯉の滝登りの滝の人数が足りなくて高３生に応援を求めたり、綱引きの綱が何十年かぶり（記録がないのでいつから使っていたかわかりません）新調されたり、新しいこともありましたが、基本的には例年通りの「土佐の運動会」が展開されました。たくさんの観客の皆さまの前で、土佐の生徒のエネルギーと豊かな力を存分に発揮する一日となりました。

新世紀募金をもとにして設けた海外研修制度を活用して、八月に教員がイギリスで研修に参加、そして九月から生徒がカナダに留学しました。授業でのＩＣＴ活用もありふれた光景になってきました。新しい波を百年の伝統の中に取り込みながら、一歩一歩進んでいきたいと思っております。引き続き、同窓の皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。

出版レーダー

鍋島高明（30回生）
「実録 7人の勝負師：リスクを恐れぬ怪物たち」
〈2017.7 ￥2,160 パンローリング株式会社〉

尾池和夫（34回生）
「句集：瓢鮎図」
〈2017.10 ￥2,916 KADOKAWA〉

西村繁男（40回生）
「あやしい妖怪はかせ」
〈2017.8 ￥1,512 アリス館〉

「バスていよいしょ」
〈2017.7 ￥1,404 童心社〉

杉山雄一（41回生）
「糖尿病の薬学管理必携：糖尿病薬物療法認定薬剤師ガイドブック」（監修）
〈2017.11 ￥4,860じほう〉

高山宏（42回生）
「ボーリンゲン：過去を集める冒険」（翻訳）
〈2017.11 ￥7,344 白水社〉

加賀野井秀一（44回生）
「メルロ=ポンティ哲学者事典 第一巻：東洋と哲学・哲学の創始者たち・キリスト教と哲学」（監修，翻訳），
〈2017.7 ￥5,832 白水社〉

英保未来（54回生）
（ペンネーム　大森望 ）
「銀河の壺なおし」
〈2017.10 ￥886 早川書房〉

「行き先は特異点」（編集）
〈2017.7 ￥1,404 東京創元社〉

川村昌嗣（54回生）
「医師が教える50歳からの超簡単ダイエット」
〈2017.8 ￥1,080 幻冬舎〉

森岡浩（55回生）
「日本人のおなまえっ！ 1」
〈2017.9 ￥1,512 集英社インターナショナル〉
「県別ランキング大全 最新版」（監修）
〈2017.8 ￥864 エイ出版社〉

名字でわかるあなたのルーツ：佐藤、鈴木、高橋、田中、渡辺のヒミツ」
〈2017.7 ￥1,296 小学館〉

私の一冊

『キャリア・マネジメントの未来図』
村木厚子著（四九回）

本書は日本の企業や社会において、ダイバーシティイ（多様性）とインクルージョン（包摂）を実現させたいという問題意識から執筆されています。インクルージョンとは人種や性別、障害の有無などにとらわれず、多様な人材と共生し活用するという考え方です。少子高齢化社会が持続可能な社会となるには欠かせない考え方だという。インクルージョンを実現させるために、一人ひとりが意識を持つことが必要ですが、そのための一助となった一冊でした。

遠藤瑞枝（六七回）

八千代出版
￥1,944 2017.10